

小笠原諸島における主な自然再生事業等（環境省関係）

○世界遺産の管理

番号	事業項目	事業趣旨	28年度	29年度以降の予定
1	小笠原諸島世界自然遺産地域における自然再生事業拠点整備の検討	小笠原諸島世界自然遺産地域の管理のために必要な、新たな拠点整備を含めた、ハード・ソフト両面の総合的なシステムを構築する。	遺産センターの新築工事運用等の検討	遺産センターの運用（H29～）
2	小笠原諸島世界自然遺産地域順応的管理検討	科学委員会や地域連絡会議の運営等により、管理計画・アクションプランを踏まえ、自然生態系保全の方向性や特定重要課題への対応等について検討する。	地域連絡会議及び科学委員会並びにその下部WGの開催 管理計画・アクションプランの改定	管理計画・アクションプランの改定（～H29）

○生態系の保全・外来生物対策

番号	事業項目	事業趣旨	28年度	29年度以降の予定
1	陸産貝類保全対策（調査、域内保全、域外保全）	小笠原諸島全体の陸産貝類の生息状況を調査し、調査結果に応じて、域内保全対策の検討・実施、域外保全の実施などを行うもの。	各島における生息状況モニタリング 父島及び兄島個体群の飼育（室内・野外） 父島鳥山でのネズミ対策	モニタリング及び域内保全の継続 飼育個体数の増加に対する野外飼育技術の確立
2	兄島陸産貝類保全プロジェクト	生息状況が危機的である兄島の陸産貝類の絶滅を回避するため、重要保全エリア及び兄島全体でのネズミ対策を行うもの。	兄島の重要保全エリアにおけるネズミの低密度化と全域における殺鼠剤空中散布 効果測定、環境影響モニタリング 陸産貝類の回復状況モニタリング	モニタリングの継続と、ネズミ再発見後の対策の実施
3	プラナリア拡散防止対策	陸産貝類の生存にとって脅威となるニューギニアヤリガタリクウズムシ（貝食性プラナリア）の侵入防止を行う。	父島鳥山地域のプラナリア防除柵の維持 父島鳥山地域、巽崎地域及び母島でのプラナリア調査 父島での陸産貝類モニタリング	継続
4	新たな外来種対策	新たな外来種の侵入・拡散防止対策のあり方と侵入時の緊急対応のあり方の議論を進める。	外来アリ類及び外来プラナリア類に対する行動マニュアルの実施体制確保 ツヤオオズアリ対策	必要な情報、技術、体制の確保のため議論を継続。
5	希少昆虫（保護増殖事業）	・オガサワラシジミ、オガサハラハミョウ、トンボ類の「自然状態での安定的な存続」を目指した対策を検討・実施する。 ・平成27年度に国内希少野生動物種に指定された種の生息状況を評価し、必要な対策を検討する。	各種の生息状況調査 ハンミョウ、トンボ類の生息環境改善 ハンミョウの域外飼育（内地、父島） ハンミョウ飼育個体の兄島への移殖 オガサワラシジミの域外飼育	中期実施計画に基づく対策の実施
6	グリーンアノール防除対策	昆虫類を捕食することによる生態系全体への脅威となるグリーンアノールの防除対策として、兄島、父島、母島でグリーンアノールの排除等を行う。	兄島でのアノールの捕獲、柵の維持管理、捕食影響調査 父島での属島への拡散防止対策の実施 母島での希少昆虫重要生息地での捕獲、新夕日ヶ丘での根絶達成のための防除等の実施	継続

7	アカガシラカラ スバト（保護増 殖事業）	「自然状態での安定的な存続」 を目指した対策の検討・実施	生息状況調査 検討会の開催による対策効果の評価 と、対策の進め方の検討 連絡会において、事故等の現地トラ ブルの対策実施	継続
8	オガサワラオオ コウモリ（保護 増殖事業）	人間生活とオガサワラオオコウ モリの軋轢を解消し、かつ「自 然状態での安定的な存続」でき る状態を目指す。	有識者を交えた「保護対策検討会」 の開催による課題解決のための保全 対策の検討 餌資源確保の試行の継続 鳥獣保護区特別保護指定区域の適正 管理	継続
9	小笠原国立公園 ノネコ対策調査	小笠原諸島（父島、母島）の山 域におけるノネコの排除を行 う。	ノネコ捕獲及び内地搬送までの一時 飼養 父島東平及び母島南崎におけるノネ コ侵入防止柵の維持管理 ノネコ捕獲推進のためのワーク ショップ開催とロードマップ見直し 外来ネズミ類モニタリング等	新たなロードマップ に沿った対策
10	希少植物（保護 増殖事業）	諸島内の希少植物12種につい て、「自然状態での安定的な存 続」を目指した対策の検討・実 施	平成27年度策定の5年間の事業実施計 画に基づくモニタリング、域内保 全、域外保全の実施	継続
11	外来植物対策	希少昆虫類の生息地保全、希少 植物の生育地保全、景観確保の 観点から外来植物駆除を実施	主に父島及び母島における実施	継続

○普及啓発

番号	事業項目	事業趣旨	28年度	29年度以降の予定
1	講演会・現地視 察会の開催	世界自然遺産の保全事業に、島 民生活との接点や課題が生じて いる中で、地域と連携した世界 自然遺産管理を行っていくため に、島民に興味を持ってもら う。	・小笠原諸島世界自然遺産地域登録5 周年記念イベント（6/26） ・昆虫及びアノールに関する講演会 の開催（7/5）	継続

○国立公園の管理等

番号	事業項目	事業趣旨	28年度	29年度以降の予定
1	海岸ゴミ清掃	海鳥、ウミガメの繁殖地保全、 景観美化を目的とした海岸漂着 ゴミの清掃	賀島、父島列島を中心に実施予定	継続
2	海域の水温デー タ収集	海域の保全を検討する上での基 礎情報として、各海域での水温 計測を行い、情報を蓄積	父島、兄島、母島周辺でのデータ収 集の継続	継続

小笠原諸島における生態系管理に係る実施事業（林野庁関係）

○保護林整備・保全対策

小笠原諸島森林生態系保全センター

番号	事業項目	事業趣旨	28年度	29年度以降の予定
1	固有森林生態系修復業務	小笠原諸島の固有の森林生態系の修復を目的に、森林生態系保護地域において、アカギ、モクマオウ等の外来種の駆除、在来植生への復元等を実施するとともに、その駆除効果や影響の検証を行う。	父島列島、母島列島において外来植物の駆除、事前事後モニタリング、兄島グリーンアノール柵Cライン沿いはじめ、既設ライン沿いの枝払い等を実施する。今後の5年計画等を作成する。	父島列島、母島列島における外来植物の駆除、事前事後モニタリング、兄島グリーンアノール柵Cライン沿いはじめ、既設ライン沿いの枝払い等を実施する。
2	饅頭岬固有生態系修復業務	土壌流出した箇所への植生回復手法を検討するため、近隣の林分から在来種（タコノキ）の移植及び種子を採取し試験的播種を行った箇所のモニタリングを行う。	モニタリングを実施する。	継続予定。
3	公益的機能維持増進協定による外来種駆除	国有林に隣接・介入する民有林の所有者と森林管理局長が「公益的機能維持増進協定」を結び、国が民有林と国有林の一体的な整備・保全を図り、森林の公益的機能の維持増進を進める。	新たな協定を締結できるよう関係者との調整を進める。	一体的な整備を進められるよう新たな協定締結に努める。

○希少野生生物保護管理対策

番号	事業項目	事業趣旨	28年度	29年度以降の予定
1	希少野生動植物種保護管理対策	国内希少野生動植物種の総合的な保護管理のため、対象となる動植物の巡視を実施する。	委嘱した自然保護管理員による父島・母島の国有林内の巡視を実施す	継続予定。
2	東平アカガシラカラスバトサンクチュアリー整備	アカガシラカラスバトの生息環境保全のため、サンクチュアリー内の整備を行う。	外来種の駆除、歩道整備等を実施する。	継続予定。
3	オガサワラグワの試験的植栽	(国研)森林総合研究所林木育種センターとの協定に基づき、オガサワラグワの植栽に関する知見を得るため、父島由来のクローン苗の育苗・植栽を試験的に実施する(調査は林木育種センター)。	父島において育苗・試験植栽を実施し、必要なデータを収集する。	植栽した苗木の保育・管理等を行う。
4	オガサワラグワの生育環境状況調査	現存する生育分布、生育状況等の調査を実施する。	引き続き検討。	引き続き検討。
5	希少野生動植物種アカガシラカラスバト・オガサワラカワラヒワ保護・管理対策調査	アカガシラカラスバト・オガサワラカワラヒワの今後の保護対策を検討するため、母島列島において生息状況の調査等を実施する。	個体識別調査(足輪装着)や人工水場の定期的な点検・清掃、石門におけるノネコの捕獲等を実施する。	継続予定。
6	オガサワラノスリ保護管理対策調査	オガサワラノスリの保護管理対策を検討するため、生息状況及び外来種駆除事業による影響等の把握を行う。	行動圏、繁殖状況、生息環境等の調査を行う。	調査結果を外来種対策等に活用する。

○調査・モニタリング関係

番号	事業項目	事業趣旨	28年度	29年度以降の予定
1	小笠原諸島における森林生態系保全管理手法開発事業（林野庁）	外来種による貴重な森林生態系への影響を可能な限り抑制するため、外来種と在来種の複雑な種間相互作用に着目し、稀少かつ特異な森林生態系を効果的に保全管理する手法の開発を行う。	父島列島を中心に種間相互作用を検討する。	継続予定。
2	小笠原諸島森林生態系保護地域指定ルートモニタリング	森林生態系保護地域内の指定ルートの適正利用等を検討するため、利用による生態系への影響等を調査する。	父島、母島、鴛島においてモニタリング調査を実施する。	継続予定。

○普及・啓発関係

番号	事業項目	事業趣旨	28年度	29年度以降の予定
1	グリーン・サポート・スタッフによる普及・啓発活動（小笠原総合事務所国有林課）	森林生態系保護地域の保全について、利用者への普及啓発を行う。	指定ルート入口でのルール指導等を実施する。	継続予定。
2	森林環境教育、森林ボランティア対応	学校、ボランティア等を受け入れ、森林生態系保護地域の外来種駆除を推進する。	内地からの一般参加者による「母島ボランティア」を受け入れる。 小笠原中学校、母島小中学校、小笠原高校、東京農大ボランティア部等による外来種駆除体験等を受け入れ	継続予定。
3	小笠原諸島の自然を後世に残すための取組	森林生態系保護地域をPRするフィールドの整備	引き続き検討。	引き続き検討。

平成28年度 主な遺産関連事業（東京都）

○外来生物対策

番号	事業項目	事業趣旨	28年度	29年度以降の予定
1	ノヤギ排除	希少植物の保護ならびに生態系の保全・回復を図るためのノヤギ排除と、ノヤギ排除後の自然環境変化のモニタリング等	○父島：ノヤギ排除とともに、外来植物対策のあり方をあわせて検討 ○弟島：オガサワラグワ稚樹調査、播種試験 ○聳島列島：海鳥や昆虫、植生等のモニタリング ○媒島：谷止めや浸食防止シートなど土壌流出対策の効果モニタリング	父島では継続してノヤギ根絶に向け駆除を実施予定、弟島ではオガサワラグワ個体群補強の取組を継続、聳島列島ではモニタリングの継続、媒島では土壌流出対策の効果モニタリング継続
2	外来植物排除	ノヤギ駆除に伴い拡散が懸念される侵略的外来植物の排除	ギンネム（聳島、媒島、兄島、父島（中山峠、巽崎））、モクマオウ・リュウキュウマツ（兄島、弟島）、駆除試験、ノヤギ排除と外来植物対策のあり方検討	聳島ではギンネム根絶、媒島では残存林の保全、弟島では既実施所有地のメンテナンス、父島ではノヤギ減少後の影響低減を目指す
3	ネズミ類排除	南島において海鳥等の保護に向けたネズミ排除	モニタリングの継続と駆除の実施予定	モニタリングの継続と再侵入防止に向けた取組の実施
4	ノネコ搬送	捕獲ノネコの搬送、消毒（環境局）	ノネコ内地搬送、ノネコ消毒治療	継続
5	グリーンアノール対策	兄島へ侵入したグリーンアノール拡散防止対策	兄島北西部におけるＣライン整備関連自然環境調査、アノールセンサスの実施	Ｃライン整備及び関連自然環境調査、アノールセンサスの継続
6	その他対策	定期船乗船者に対する外来種対策（おがさわら丸、ははじま丸）	乗下船時の泥おとし、海水マットの設置	継続

○希少種の保全

番号	事業項目	事業主旨	28年度	29年度以降の予定
1	オガサワラオオコウモリ	保全対策に資する生態情報の収集及び生息環境改善策の検討	春季行動圏調査、海岸林構成植栽モニタリング等	行動圏調査等
2	アカガシラカラスバト	保全対策に資する生態情報の収集と内地個体群の維持	北硫黄島での調査、上野動物公園での飼育繁殖の継続	継続
3	オガサワラシジミ	保全対策に資する生息環境改善と保全施設の整備、運用	所有地における餌木生育環境の改善及び餌木増殖	継続
4	アホウドリ類	ノヤギ根絶後のアホウドリ類繁殖拡大の促進	聳島列島での標識調査（クロアシアホウドリ、コアホウドリ）、聳島での誘引及び回帰個体モニタリング調査（アホウドリ）	継続

○利用と保全の両立

番号	事業項目	事業主旨	28年度	29年度以降の予定
1	東京都自然ガイド養成	自然の保護と利用の両立を図る東京都版エコツーリズムを推進する「東京都自然ガイド」の養成	新規講習及び更新時講習の実施	継続
2	東京都版エコツーリズム（南島）	貴重な自然が存する地域として南島、石門を指定し、その自然保護と適正な利用を図る	自然環境調査及び利用状況の把握	継続
3	東京都版エコツーリズム（石門）		自然環境調査及び利用状況の把握	継続

○普及啓発

番号	事業項目	事業主旨	28年度	29年度以降の予定
1	南島外来植物駆除ボランティア	南島を題材として小笠原における自然環境保全対策の必要性に関する普及啓発	外来植物ボランティア作業の実施	継続

平成28年度世界自然遺産関係事業（小笠原村）

○普及啓発事業

番号	事業項目	事業趣旨	28年度	29年度以降の予定
1	村民意見交換会	世界自然遺産の価値観を持続的に維持していくためには、そこに居住する村民とともに遺産価値を保全する施策を実施している。そのためには、行政との連携が重要なことから、遺産保全の取り組み状況の情報や村民が肌で感じている情報を共有し、遺産登録後の様々な課題を村民とともに考えていくことを目的とする。	年度当初に取組発表会として開催 父島 4月20日 村民参加23名 母島 4月19日 村民参加19名	これまでに得られた意見も踏まえつつ、引き続き村民との意見交換の場を設置する。
2	兄島視察会	兄島でのグリーンアノール対策や外来種が自然環境に及ぼす影響を学習する機会を提供し、自然環境の意識の向上及び新たな外来種を生み出さないための知識の共有を図ることを目的とする。	第1回を7月17日に開催予定 年度内に計2回予定	継続

○外来種対策

番号	事業項目	事業内容	28年度	29年度以降の予定
1	野ネコ・動物診療対策事業	動物巡回診療は年3回実施し、村内の愛玩動物の診療を行うとともに飼い猫の不妊去勢手術及び識別処理（マイクロチップ挿入、ピアス）を施す。	父島 5・8・2月に開催予定	継続
2	東京都獣医師会派遣診療	小笠原村飼い猫適正飼養条例の遵守を推進するため、村内で愛玩動物を飼育している飼い主に対し、適正飼養・終生飼養を普及啓発する事業として、東京都獣医師会の協力を得て、年1回の派遣診療を実施する。	父島、母島 11月に開催予定	実施内容・規模を再検討
3	自然環境啓発事業	村民の外来種に対する普及啓発を図るため、村民ボランティアを募集し属島等における移入植物及び樹木の除去作業を行う。	南島 4月28日実施	継続
4	イヌ、ネコ以外の愛玩動物対策	野外への放逐・定着により生態系への影響を及ぼす恐れのある愛玩動物について、適正な飼養に関する情報整理や普及啓発等、対策の方法について検討する。	WGを継続 (3回予定)	平成28年度検討結果を踏まえて検討

○オガサワラオオコウモリ農作物被害防除対策事業

番号	事業項目	事業内容	28年度	29年度以降 の予定
1	オガサワラオオコウモリ農作物被害防除対策事業	<p>オガサワラオオコウモリの農作物被害防除に対し、本種の防鳥ネット等に絡まる事故を防止し、農作物を保護するため、文化庁及び東京都の補助を受け、本種に安全な防除策を提示し、普及する。</p> <p>実証試験による安全性等が確認された硬質樹脂製ネットを使用した施設の設置希望者（家庭菜園者を含む栽培者）に対して、施設の設置等を行う。</p>	<p>父島 設置箇所16件 設置面積1740 ㎡</p>	<p>継続</p>

現地開催 会議開催 村民向け現地視察 検討委員現地視察

会議等名称		担当	H28.4	H28.5	H28.6	H28.7	H28.8	H28.9	H28.10	H28.11	H28.12	H29.1	H29.2	H29.3	アウトプット・内容	
現地	○地域連絡会議	合同事務局				第1回					第2回			実務者会合	平成26年度第2回地域連絡会議での意見への対応状況の報告と、今後の進め方の意見交換	
	・管理計画改定作業部会	合同事務局						WG	開催		WG		開催		管理計画・アクションプラン改定の検討	
	地域課題WG	地域愛玩動物WG	小笠原村		開催			開催			開催					愛玩動物について、適正な飼養に関する情報整理や普及啓発等、対策の実現に向けた実施計画について検討する
		新たな外来種侵入拡散防止WG	現地事務局(環境省)			開催		開催				開催				外来アリ類やブラナリア類の侵入・拡散防止に関する試行の継続
		ツヤオオズアリ防除作業部会(→科学委員会下部に移行)	現地事務局			開催		開催				開催				母島のツヤオオズアリ防除対策に関する情報共有、対策評価案の作成
	村民との意見交換・普及啓発	村民意見交換会・報告会	現地事務局	H27取組発表会							父・母開催					①情報共有・理解醸成、②今後の施策展開につなげる意見交換 ※報告会はH29年度初めに実施予定
		兄島視察会	現地事務局				開催 主催:村			開催 主催:環境省			開催 主催:村			兄島のマイマイや昆虫の状況や、保全事業(アノール対策、植生回復等)についての島民の現場理解を深める
		父島・母島島内視察会	現地事務局?					開催								父島・母島島内での自然再生の取組の紹介
		父島等での外来種駆除ボランティア	林野庁等	未定										父島等における外来種対策や保護地域保全の理解を深める		
		南島外来植物駆除ボランティア	東京都													南島における自然再生事業の理解を深める
属島等外来植物駆除ボランティア		小笠原村		開催					開催					開催	南島をはじめとした属島等における自然再生事業の理解を深める	
科学委員会	○科学委員会	合同事務局													世界遺産に登録された小笠原諸島の自然環境の適正な保全管理に必要な科学的助言を得る	
	科学委員会下部WG	アノール対策WG	合同事務局(環境省)				第1回					第2回			第3回	・ロードマップ、平成28年度実施計画に基づく対策の評価、戦略の改善
		父島列島生態系保全管理WG	合同事務局(林野庁)					第1回							第2回	父島列島の兄島、弟島、父島を中心に、種間相互作用に着目した森林生態系保全管理手法の検討・提示
		陸産貝類保全WG	合同事務局(環境省)				第1回					第2回			第3回	・小笠原諸島の陸産貝類の生息状況の評価と対策の検討 ・陸産貝類の保全方針の策定(本WGでは、モニタリング、外来プラナリア類対策、域外保全・再導入について検討)
		管理計画・アクションプランWG	合同事務局(環境省)								第1回(合同開催)				第2回(合同開催)	・世界遺産の保全管理の方針を定めた管理計画の改訂 ・生態系保全アクションプランの改訂
	兄島陸産貝類保全プロジェクト会議	環境省	第1回							第2回				第3回	・平成28年度の兄島陸産貝類保全対策の検討 ・前年度の小笠原諸島ネズミ対策検証委員会を踏まえた環境影響、地域との合意形成に関するチェック機能の追加	
	東平地区生態系保全方針検討会	環境省													・東平地区における自然再生事業の評価	
	オガサワラオオコウモリ保護対策検討会(仮称)	環境省	有識者との意見交換の場を設定(実施時期未定)										・科学的な知見の有識者と、地域関係者とのオガサワラオオコウモリの共生に関する意見交換を実施			
	希少野生植物保護増殖事業検討会	環境省												第1回	・対象12種の中期実施計画に基づく事業進捗の評価	
	希少昆虫保護増殖事業連絡会議	環境省					第1回							第2回	・オガサワラジミ、オガサワラハシロウ、トンボ類の中期実施計画に基づく、事業進捗の評価	
個別事業検討会等	アカガシラカラスバト保護増殖事業検討会	環境省									第1回				保護増殖事業の各取組の評価と次年度事業計画の策定	
	アホウドリ保護増殖事業検討会	環境省							第1回							
	森林生態系保護地域保全管理委員会	林野庁						第1回					第2回		森林生態系保護地域の保全・管理について検討等を行う。	
	森林生態系保護地域保全管理委員会AD会議	林野庁						第1回					第2回		森林生態系保護地域の保全・管理について科学的知見等のアドバイスを 行う。	
	固有森林生態系の修復に係る外来種駆除等事業検討委員会	林野庁			第1回							第2回			森林生態系保護地域における固有森林生態系の修復事業の進め方	
	アカガシラカラスバト・オガサワラカワラヒワ保護管理対策調査	林野庁											開催		アカガシラカラスバト・オガサワラヒワの保護管理対策に関する検討	
	オガサワラノスリ保護管理対策調査検討委員会	林野庁											開催		オガサワラノスリの保護管理対策に関する検討	
	南島植生回復調査(ネズミ対策)検討委員会	東京都		開催								開催			南島におけるネズミ対策のあり方	
	南島自然環境モニタリング検討委員会	東京都										開催			観光利用や自然再生対策、ネズミなどが自然環境に与える影響の把握と対策のあり方	
	第島オガサワラグワ検討委員会	東京都							開催						オガサワラグワ親木保全及び稚樹育成のあり方	
個別事業検討会等	父島及び父島列島外来植物対策調査検討委員会	東京都			*6月から11月までの間、現地での意見交換会等開催			現地視察		開催					ノヤギ駆除の影響等に伴う外来植物対策のあり方	
	父島植生回復調査(ノヤギ対策)検討委員会	東京都						現地視察		開催					今後のノヤギ対策及びそれに伴う影響の把握と対策のあり方	
	鴛島列島植生回復調査検討委員会	東京都								開催					ノヤギ駆除後一定時間が経過した鴛島・媒島の植生回復対策のあり方	
	媒島鴛島植生復元検討委員会	東京都								開催					同上(*土砂流出対策中心)	
	母島石門自然環境モニタリング専門家ヒアリング	東京都											開催		利用に伴う石門の自然環境に与える影響の把握	

世界自然遺産登録 5 周年の取組について

1. 概要

- 内地においては対外的発信を、現地においては村民との知識・認識の共有を主要な目的とする。
- 現地イベントは、現地事務局の協力により、科学委員会や地域連絡会議においても遺産価値や取組成果に関する村民理解を促進することの重要性が指摘されていることを踏まえた取組とする。

2. 事業実施スケジュール

	事業	時期	開催地	実施概要	実施体制
済	プレセミナー	3月	父・母	マイマイ講演会	環境省
済	取組発表会	4月19、20日	父・母	平成27年度の事業報告他	現地事務局
済	産業祭出展	5月6日	父	遺産5周年ブースの設置	現地事務局
済	返還祭出展	6月25日	父	遺産5周年ブースの設置	現地事務局
済	内地記念イベント	6月26日	内地	第1部：シンポジウム 第2部：テーマセッション	内地事務局
	記念セミナー	7月5日	父	昆虫、グリーンアノール対策	環境省、自然研、村
	記念セミナー	8月25日 26日	父・母	植物	林野庁、村
	記念フォーラム I	10月20～30日	父・母	記念講演：海外専門家（進化生物学） 連携企画：検討中	現地事務局
	記念フォーラム II	11～12月	父・母	記念講演：国内有識者（利用・観光） 連携企画：検討中	現地事務局
	村民向け現地視察会等	4～12月	父・母	・兄島視察会：3回程度（環境省、村主体） ・父島・母島島内視察会 ・外来植物駆除ボランティア：南島他	現地事務局

3. その他関連事業

- ・5周年記念リーフレットの作成（1万部）：内地、現地で配布中
- ・5周年記念ロゴシールの作成（10万枚）：農作物、水産物、加工品等への貼付
- ・ノベルティグッズの作成：オリジナル野帳（1500冊）、うちわ（1000枚）：内地、現地で配布中

4. 内地記念イベントの実施概要

- 行事名：小笠原諸島世界自然遺産地域登録5周年記念イベント
- 日時：平成28年6月26日(日)
- 会場：東京都議会議事堂1階：都民ホール、都政ギャラリー、議事堂レストラン
- 主催：小笠原諸島世界自然遺産地域管理機関
(関東地方環境事務所、関東森林管理局、東京都、小笠原村)
- 協力：斜里町・羅臼町(知床世界自然遺産地域)
鱒ヶ沢町・深浦町・西目屋村・藤里町(白神山地世界自然遺産地域)
屋久島町(屋久島世界自然遺産地域)
- 参加者：第1部シンポジウム 一般139人、報道7名
第2部テーマセッション 一般58名、報道3名

■第1部シンポジウム開催概要：

主催者挨拶：環境大臣 丸川珠代、東京都副知事 川澄俊文(敬称略)

来賓挨拶：衆議院議員 石原宏高、松原仁(敬称略)

	講演内容	講演者	主な講演内容
冒頭	映像による小笠原	NHK エンタープライズ制作本部 NHK 制作局科学環境番組部	・アホウドリの新繁殖地形成の取組、および西之島の噴火やその後の鳥類の定着状況を中心に映像で紹介。 ・特に西之島については、撮影機材上陸にあたっての外来種対策のシーンを入れていただき、生態系保全の取組を紹介。
1	遺産価値の陸産貝類を守る努力	小笠原諸島世界自然遺産地域科学委員 千葉聡氏	・主に陸産貝類の観点から小笠原の遺産価値を紹介いただくとともに、現在の危機と保全対策の取組について紹介。
2	希少種を守る地域協働の取り組み	公益社団法人東京都獣医師会理事 中川清志氏	・小笠原の生態系を保全するための一環として、外来種であるノネコ対策を島民が主導的に実施し、東京都獣医師会がバックアップすることで、アカガシラカラスバトの増加など大きな成果を挙げていることを紹介。
3	世界遺産地域における観光・利用	株式会社ナショナルランド・小笠原観光情報センター 代表取締役 松崎哲哉氏	・島民の取組によって島の生態系が維持・復元されることが、小笠原の遺産価値の維持につながっていること、そしてガイドツアーでは様々な取組と成果を理解できるプログラムが準備されており、世界自然遺産の保全対策について実際に「見る」「感じる」ことを通じて深く理解できることを紹介。
4	小笠原世界自然遺産地域が目指すべき目標像	小笠原諸島世界自然遺産地域科学委員長 大河内勇氏	・小笠原の遺産価値の全体像を紹介するとともに、各講演内容の核心部分を関連づけてまとめ、世界自然遺産が目指すべき人と自然との「共存」のあり方や目標像を提示。



■第2部テーマセッション開催概要：

冒頭挨拶 小笠原村長 森下一男

閉会挨拶 関東森林管理局長 漆原勝彦

- ・国内4つの世界自然遺産地域から町村長等が出席し、各地域の紹介や課題の共有を行い、「世界自然遺産地域ネットワーク協議会」の立ち上げを宣言。
- ・今後、関係8町村が連携し、次の活動に取り組んでいくことを確認。
 - (1) 日本の世界自然遺産地域の価値と魅力を発信
 - (2) 世界自然遺産地域の社会的な環境保全活動の推進
 - (3) 世界自然遺産を活かした地域振興の検討



■ギャラリー（各種ブース展示・木工教室）

観覧 約350名

